

# 『物語のおもしろさ紹介 show!』

## 5年「注文の多い料理店」

令和2年 9月25日(金) 5校時 5年1組教室 5年1組男子13名 女子12名

### 1 単元の目標

○人物像や物語の全体像を想像したり、表現の効果を考えたりし、見つけたおもしろさを解説する文章を書くことができる。

### 2 単元の評価規準

| 観点   | 知識及び技能                          | 思考力, 判断力, 表現力等   | 主体的に学習に取り組む態度   |
|------|---------------------------------|--|---|
| 評価規準 | 物語の構成の工夫や比喻, 反復などの表現の工夫に気づいている。 | 人物像や物語の全体像を想像したり, 表現の効果を考えたりしている。<br>文章を読んで理解したことをまとめている。<br>事実と感想や意見を区別して, 紹介文を書いている。 | 学習課題に対して見通しを持ち, 物語を読もうとしている。<br>物語のおもしろさを紹介する文章を交流し, 自分の考えを広げようとしている。 |

### 3 指導計画 (全9時間)

| 次 | 学習活動  | 評価規準<br>【観点】(評価方法)  |
|---|---|---|
| 一 | <ul style="list-style-type: none"> <li>「イーハトーブの夢」を読み, 宮沢賢治について読み取ったことをまとめる。(1)</li> <li>賢治が考えた「イーハトーブの夢」とは何か考える。(1)</li> </ul>  |   |
| 二 | <p><b>課題の設定</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>範読を聞き, 感想や疑問を交流する。</li> <li>学習課題を確かめ, 考えたい課題を精査し, 学習計画を立てる。(1)</li> </ul> <p>【単元を貫く課題】物語のなぞを解き, 面白さを紹介しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「現実の世界」から「不思議な世界」に入り, また「現実の世界」に戻るという物語の構成, 不気味な雰囲気を出している表現をつかむ。(1)</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習の見通しを持ち, 学習計画を考えている。<br/>【態度】(行動観察, 振り返り)</li> <li>物語の構成の工夫や表現の工夫を理解している。<br/>【知・技】(行動観察, ノート)</li> </ul>  |
| 三 | <p><b>情報の収集</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>会話や行動を基に, 二人の紳士の人物像を読み深める。(1)</li> <li>山猫の人物像について, 読み深める。(1)</li> <li>戸に書かれた言葉や題名の二通りの意味を考え, 物語のおもしろさについて考える。(1)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>二人の紳士の人物像について, 叙述を基に想像し, 理解を深めている。<br/>【思・判・表】(行動観察, ノート)</li> <li>山猫の人物像について, 叙述を基に想像し, 理解を深める。<br/>【思・判・表】(行動観察, ノート)</li> <li>戸に書かれた言葉の意味を理解し, 物語のおもしろさを感じながら読み進めている。<br/>【思・判・表】【態度】(行動観察, ノート)</li> </ul> |
| 四 | <p><b>整理・分析</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物語の全体像を確かめ, 「イーハトーブの夢」を再度読み, 物語の面白さについて考える。(1) (本時8/9時間目)</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>他作品と関連させ, 作品に込められた作者の思いを考える。<br/>【思・判・表】(行動観察・ノート)</li> </ul>  |
| 五 | <p><b>まとめ・創造・表現</b>      <b>ふりかえり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取った面白さを紹介する文章を書き, 交流する。(1)</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>読み取った物語のおもしろさを選び, それに基づき, 面白さを紹介する文章を書いている。【思・判・表】(成果物, 行動観察)</li> <li>書いた文章を交流し, 自分の考えを広げている。<br/>【態度】(成果物, 行動観察)</li> </ul>  |

#### 4 本時の展開（8／9時間）

- (1) **本時の目標** 作品に込められた思いを想像し、伝え合う。  
 (2) **観点別評価規準** 他作品と関連させ、作品に込められた思いを考えている。【思・判・表】  
 (3) **学習の展開**

| 学習活動                                    | 指導上の留意点 (○)<br>予想される児童の反応 (・)   | 評価規準 (評価方法)<br>配慮を要する児童への支援 (◆)  |
|---|---|--|
| 1 本時の問いを確認する。                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ紳士は顔が戻らなかったのか。山猫の罰かな。</li> <li>・紳士の心は変わってないってことかな。</li> </ul> ○物語を深く理解するために、宮沢賢治という人物について、知る必要があることに気付かせる。  | ◆既習内容（紳士の人物像、山猫の人物像、戸の言葉）を掲示し、物語の全体像が捉えやすいようする。  |
| めあて：宮沢賢治の生き方や考え方を知り、注文の多い料理店の面白さを考えよう。  |   |  |
| 主発問：宮沢賢治が「注文の多い料理店」に込めた思いは何か。           |   |  |
| 2 宮沢賢治の生き方や考え方と「注文の多い料理店」とで関係することを整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・優しい心で人々に接した。紳士は優しくなかったかな。</li> <li>・亡くなった妹のトシを心底愛していた。紳士を殺さなかったのも妹のことが関係しているかな。</li> <li>・人間が人間らしく生きられる世界、人間も動物も互いに心が通い合うことができる社会を求めた。山猫も紳士もその理想とはかけ離れているね。</li> </ul> ○くま手図に整理させ、児童が自身の意見に根拠をもって話すことができるようにする。   | ◆掲示物を活用し、「イーハトーブの夢」の文章から分かる賢治の生き方や考え方を整理する。<br>◆既習の掲示物を活用し、「注文の多い料理店」の登場人物に関する情報を振り返らせる。                     |
| 3 作品に込められた思いを考える。                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな命も大切に賢治には、紳士の傲慢な態度がどうしても許せなかった。</li> <li>・自然災害などで苦しむ農民を見てきた賢治は、命を粗末にする紳士も山猫も、どんな生き物であっても殺したくはなかった。</li> <li>・賢治にとっては、徒に命を奪うことは許せなかった。人間も動物も大切にされる世界にしたかった。</li> <li>・賢治の他の作品では、動物と人間が心を通わせる話が多くあります。次に紳士と山猫が出会った時に、心から分かりあえることを願っていたのかな。</li> </ul> ○交流を通して、自分一人では気づかなかった観点や考え方を意識させ、自身の意見を深めさせる。<br>○宮沢賢治の思いを想像させ、自分ならどうかという視点で繰り返し発問をすることで、読みを典型化する。 | ◆自由に行き来させ、広く意見を交流させる。書きにくい児童には話型を示し、自分の意見をまとめられるようにする。<br><br>・他作品と関連させ、作品に込められた思いを考えている。<br>【思・判・表】（ノート、発言） |
| 4 学習をまとめる。                              | ○他作品と関連させ、作品に込められた作者の思いを想像することの楽しさに気付かせる。   |  |

#### 5 本単元を通して行う言語活動

本単元では物語の謎（問い）を解くという活動を行う。初読の段階で児童は、物語の不思議さや疑問に気付くと思われる。児童が感じ取った問いを解き明かし、新たな問いへとつなげながら学習を進めることで、物語のおもしろさに気付かせ、物語のおもしろさを紹介する文章を書く。

児童が感じる謎として①物語の構成、②紳士の人物像、③山猫の人物像、④擬態語や擬声語など物語の不気味さを際立たせる表現、④戸に書かれた言葉が考えられる。本単元学習を進める上で、教材文の読み込みだけでは、解明できない問いがある。よって本単元では「イーハトーブの夢」や他作品も併せて読み、宮沢賢治という人物について理解をすることで、読みを深めていく。複数の文章から必要な情報を取り出し、それらを関連させ、意見を表現させることで、論理的に思考し表現する力が育成できると考えた。

並行読書を進めることで、児童が賢治になりきって、物語の面白さを語るができるようにしたい。